

地球温暖化防止講演会 『環境と日本人のこころ』



【地球温暖化防止月間 講演会】

12月は、平成9年12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）を契機として、翌年の平成10年度より「地球温暖化防止月間」と定められた月です。

今回の講演会講師には、造園家として数多くの作品やプロジェクトに携わり、平成17年に開催された愛・地球博で会場演出総合プロデューサーを務められた、涌井雅之さん。聞き手には、気象予報士としてテレビでも活躍され、容器包装廃棄物排出抑制推進委員（3R推進マイスター）、クール・アース・アンバサダーのメンバーも務めている根本美緒さんを招いて対談形式で開催いたしました。

【IPCC 第四次報告書について】

IPCC 第四次報告書の結果から、地球温暖化は人為的ものだとほぼ断定されました。

20世紀のおよそ100年間……0.6度上昇。

1996年から2006年の間……0.74度上昇。

このまま対策を講じない場合、最新のデータでは、100年後に1.1～6.4度上昇の予想もされています。緯度から考えると、これは大変なことです。

【京都議定書について】

日本は、2005年の2月に正式に批准して発効しました。2008年から2012年の期間に1990年の基準から温室効果ガスの排出量を日本は『6%』削減するのが約束となっていますが、残念なことに8.2%増えてしまっています。ですから、日本は14.2%削減しなくてはならない事態となっています。

CO₂（二酸化炭素）排出量の主な内訳を見ると、産業部門が多いのですが、過去15年で5.5%削減しています。これは、モーダルシフトと言って、例えばトラックが高速道路で輸送していくよりは内航海運あるいは鉄道に転換する方法でCO₂（二酸化炭素）の削減に努めるなど、さまざまな努力をしている成果と考えられます。

一方で、家庭部門を見ると、36.7%も増加しています。家庭で使用する電気の中で主な内訳として、エアコン、冷蔵庫、照明があります。例えばエアコンの使用時は、暖房は1度下げ、冷房は1度上げる。30年前の冷蔵庫を使っているよりは、今の省エネの冷蔵庫を買って使ったほうが長期的に見たら経済的で、環境にも優しいという発想があります。

【ヒートアイランド現象について】

ヒートアイランド現象という日本の都心部の気温が高くなる現象がおこっています。

これは都市の自然面である緑地とか水を全部人口面に変えてしまったため、太陽から放射するエネルギーが全部その中に吸収せず、反射して大気を暖めてしまったり、一方ではクーラーの室外機や車などの人工的な熱負荷があります。このような現象によってヒートアイランド現象が進んでいるという深刻な問題があります。

【最後に】

LOHAS(ロハス)とは、「Lifestyles Of Health And Sustainability」ライフスタイル オブ ヘルス (健康) そして サステイナビリティ (持続性) の略です。この言葉はアメリカでの研究から導き出された言葉ですが、もともとはまさに日本人のライフスタイルがこの言葉だったのです。

自然を大切にすることが自分も大事にする。環境を大切にすることが自分も大事にする。そして自分を大事にすること、自然を大切にすること。

こういう暮らしを紡いできたという事実を忘れないことが大切であり、一人ひとりの意識が大切です。